

玉 神社だより じゃり

第30号

編集・発行

長崎県神社庁 教化部

令和4年版

長崎市上西山町19-3

TEL.095-827-5689

<https://nagasaki-jinjacho.or.jp/>

みなさんは、京都や博多の祇園祭、大阪の天神祭をご存知ですか。絢爛豪華な山車や勇壮な引き回しに目を奪われがちですが、この様な夏に行われる祭事の多くは、疫病退散・無病息災を祈って行われてきました。また、茅の輪くぐりや、夏越・年越しの大祓も同様の意味合いがあります。これらのお祭りが、古来より連続と受け継がれていることから、私

疫病とまつり

たち日本人が常に疫病と戦ってきたことが想像できません。

疫病の記録として残っている最古のものとは天然痘です。六世紀半ばの仏教伝来と共に大陸から持ち込まれたものとされ、桓武天皇の延暦十六年（七九七）に成立した「続日本紀」によると、最大の流行が見られた天平七年（七三五）と同九年（七三七）に聖武天皇が、全ての神々にお供え物を捧げて祈願

し、米や薬を配給したとの記録が残っています。

疫病との戦いは今も続いているというのを、今回の感染症の世界的な流行で思い知らされました。しかしながら私たち日本人には、疫病に対する備えが出来ます。手洗いや入浴を頻繁に行い、人と接触せずに挨拶を行うなどの慣習は、感染予防を通じて身についたものであり、先人たちの知恵が見事に受け継がれています。

医療や科学技術の発展により、過去とは比べ物にならないほど危険性は低くなっています。それでも、時に不安や孤独に押し潰されそうになることもあるでしょう。そのような時には、どうぞ神社において下さい。

「心のワクチン」をお受け取りに。

（令和三年九月記）

京都・祇園祭（八坂神社の祭礼）の山鉾



日本の神話 「八俣の大蛇退治」

高天原を追放された須佐之男命は出雲国に降りた。川の上流から箸が流れてくるのが目に入り、その川をさかのぼってみた。しばらく行くと老夫婦がおり、まんな中に少女を据えて泣いている。老夫の名は足名椎、妻は手名椎、娘の名は櫛名田比売といった。

須佐之男命はなぜ泣いているのか聞いた。「私たちには八人の娘がいましたが、八俣の大蛇が毎年やって来て食べてしまうのです。今年もまたその大蛇がやってくる時期になり、この子も食べられてしまうのではと泣いていたのです。」

さらに須佐之男命が大蛇の様子を訊ねると、「目が赤ほおずきのように赤く、胴体は一つなのに八つの頭と尾がある化け物で、体に苔や檜、杉などが生え、長さは八つの谷、八つの峰にわたる程です。」

須佐之男命は功名心と勇気を掻き立てられ、「よし俺が退治してやる。ところでその娘を俺に出来ないか。俺は天照大神の弟で、今高天原から下って来たところだ。」

「それは恐れ多いこと、娘は差し上げましょう。」須佐之男命は娘を聖なる櫛に姿を変えさせ、角髪にさして、老夫婦に指示した。

「八塩折の酒（非常に強い酒）を作り、垣根をめぐらし、その垣根に八つの門を設け、門ごとに大きな酒桶を置いて酒をなみなみと盛るんだ。」

そして、大蛇が八つの頭、尾をふりたて赤い眼をぎらぎらさせてやって来た。桶の酒を見つけるとすぐに、酒を飲みだした。飲むほどに酒がまわって、いい気持ちで長々とのびて寝てしまった。

「今だー！」須佐之男命は、剣を抜いて大蛇をずたずたに斬ってしまった。すると、大蛇の中ほどの尾から剣が出てきた。「これは珍しい。」

須佐之男命はこの剣を、高天原の天照大神に献上した。これが三種の神器の一つであり、熱田神宮の御神体である草薙剣である。

こうして大蛇を退治した須佐之男命は、櫛名田比売との新婚の宮殿を造営する場所を出雲国に求めた。須賀の地に来て、

「ここへ来て、心がすがすがしくなった。」
と言ってそこへ宮殿をつくった。それでこの地を須賀といい、現在では須我神社が祀られている。



ご造営ニュース

たかまつじんじや
高松神社

宮 司…大鳥居 亨

鎮座地…平戸市早福町二二九番地

ご祭神…高市姫命
たかいちひめのみこと

電 話…〇九五〇—二七—〇二六九（宮司宅）



平戸市の南部にある早福町は、平戸大橋を渡り南へ四十分ほど走った半農半漁の氏子数約六十戸の小さな集落です。現在は遊漁船等が有名となり、多くの釣り人で賑わっています。

当地区には、今回改築した「高松神社」と「神崎神社」の二社が鎮座し、氏子の繁栄を日々お祈り申し上げます。十一月に執り行われる高松神社例祭と旧暦六月の神崎神社祇園祭には、氏子の若者を中心にソフトボール大会を開催し、地域のつながりも大切にしています。

改築した高松神社の創建は不明ですが、以前の社殿は江戸時代に建立されたと伝えられています。長い歳月の間風雨にさらされ、時には修繕をしながら祭典を奉仕してきましたが、氏子より改築を求める声が多く、約十年間にわたり積み立てを行い改築が実現しました。

新しい社殿は、拝殿三間×四間、本殿・幣殿を合わせて二三・五坪になり、檜を多く用い、匠の卓越した技によって本年六月に竣工しました。七月一日には竣工大祭を斎行。新型コロナウイルスの影響により氏子以外の来賓参列はご遠慮いただき、午前十時より夕方まで、数十年ぶりの平戸大神楽を多くの氏子参列のもと奉納しました。また、改築に合わせて狛犬、石灯笼が奉納されるなど境内も整備され、当代の氏子の熱意が後世に伝えられる素晴らしい事業となりました。

総事業費…千五百万円

参拝のいろは その⑤

今回は、めでたく赤ちゃんを授かった時の妊娠から誕生にかかわる神社での祈願、「安産祈願」と「初宮詣」についてのお話です。

安産祈願は、赤ちゃんの無事な誕生を願い妊娠五ヶ月目の安定期に入った頃に、神社へお参りをします。この安産祈願を行う日は、犬は多産で安産というところにあやかり、無事にお産できるようにと戌の日を選ばれることも多いようですが、お母さんの体調が優れないようなときは無理することなく、別の良い日を選んで、また戌の日ではなく週末に合わせた日程なども検討しお参りされると良いでしょう。また、近年のリサーチによると妊婦の方の八割以上が安産祈願をされたという報告もあります。安産祈願は、お母さんやお父さん、またそのご家族みなさんの喜びと、出産の無事を願う気持ちの表れではないでしょうか。

待望の赤ちゃんが誕生してからは、昔ながらの節目として生後三日目の産湯や、七日目のお七夜での命名なども大事にお祝いされてきました。日々の赤ちゃんの成長を神さまの見守りに感謝しながら初宮詣を迎えます。お子さまの誕生を氏神様に感謝とご報告をし、これからの健やかなる成長を神さまに祈るための赤ちゃんの初めてのお参りです。男の子は誕生三十一日目、女の子は十三日目に行うのが通例（地域により異なります）ですが、まずは赤ちゃんやお母さんの体調を優先され、ご家族のみなさんでお参り出来る日を中心に選ばれると良いでしょう。

さらには、お食い初め（百日祝）、初誕生、初節句、七五三や学校入学などお子さまの成長の節目とともに、ご家族揃って神社へお参りください。



※戌の日…十二日毎に訪れる日付の干支で、戌となる日